

5 北九州市

【基本情報】

人口 971,938 人（2010 年）

面積 488.78 km²

新幹線 小倉駅まで約 10 分、飛行場（北九州空港）まで 50 分。

（地域の特徴）

（1）若者支援の背景と現状

ア 若者支援の背景

北九州市における若者支援の背景には、子ども・若者の反・非社会化の進行が挙げられる。

平成 23 年中の福岡県において刑法犯で検挙補導された少年の数は 5,316 人で全国 5 位であるが、少年人口 1,000 人あたりに刑法犯少年が占める割合は 10.7 人で全国 4 位である。その中でも北九州市は 19.7% を占め、県内における少年の人口の占める割合 18.2% を上回っている。

また、北九州市ではシンナー等の薬物乱用少年が多いことや、検挙補導された少年の内 47.9% が中学生以下という低年齢化も特徴である。このような少年非行の低年齢化の背景の一つには家庭環境があると考えられる。

北九州市では中学校を卒業後、70 名近い生徒が進学も就職もしない状態である。また、高校中退後同様の状態になっている生徒は更に多いと推測される。

いわゆるニート（若年無業者）の数については、労働力調査等をもとに推計すると、本市では約 5,800 人（15～39 歳）となる。

また、ひきこもりの数については、内閣府「ひきこもり調査」をもとに推計すると、約 5,000 人（15～39 歳）となる。

イ 若者支援の現状

上記のような背景のもと、北九州市では、平成 14 年に子ども総合センターの開設による総合的専門指導体制へと移行した。同センターは、児童相談所・補導センター・適応指導教室を統合して、保健福祉局（現在の子ども家庭局）直下に開設されたもので、若者に対する活動を総合的に行える体制を整備した。

平成 22 年度には、北九州市子ども・若者支援地域協議会の設立による支援ネットワークを構築するため、協議会の基本的な運営方針の決定、実務者会議の円滑な運営のための環境整備を目的とした代表者会議と、単一の機関では対応・支援が難しいケースの検討や、支援団体・支援機関の間での情報交換や相互理解を図る場としての実務者会議を発足させた。

また、子ども・若者に関する相談を受け、関係支援機関と連携することを目的として、平成 22 年度に総合相談窓口「子ども・若者応援センター YELL」を開設し、相談から支援へと円滑な対応を可能にする体制を整備している。

図表 126 北九州市における協議会参加主体一覧

| | 教育 | 福祉 | 保健・医療 | 矯正・更生保護 | 雇用 | 総合相談等 その他 |
|----|--|--|---|--|--|---|
| 機関 | <ul style="list-style-type: none"> ・北九州市教育委員会 ・公立高等学校 ・私立高等学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・子ども総合センター ・少年支援室 ・ひきこもり地域支援センター ・発達障害者支援センター ・北九州市民生委員児童委員協議会 | <ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉センター | <ul style="list-style-type: none"> ・小倉少年鑑別支所 ・福岡保護観察所北九州支部 ・北九州少年サポートセンター | <ul style="list-style-type: none"> ・公共職業安定所 ・若者ワークプラザ北九州 ・福岡県若者サポートステーション | <ul style="list-style-type: none"> ・消費生活センター ・勤労青少年福祉公社 ・青少年ボランティアステーション ・NPO 法人STEP・北九州 ・子ども・若者応援センター「YELL」 |
| 個人 | - | - | - | - | - | - |

図表 127 北九州市における協議会全体図



(2) 今年度事業の課題と目標

ア 地域協議会運営における課題

(i) 協議会運営全般での課題

現在の本市の状況は、まだまだ公的サービスが中心となっており、指定支援機関については、今後の民間団体の動向を見ながら検討する必要がある。

思春期保健を行う医療機関が少なく、中核となる病院がない。医療機関との個別の連携は少しずつ見られるようになったが、今後、ますますの医療分野との連携が必要である。

現場での支援を担う支援員については、より一層の知識の高度化が課題である。また、異動等により、支援員が代わった場合の継続性の維持等も課題となっている。

現場の支援機関に共通の課題として、「支援範囲の策定」、「支援力の向上・人材育成」、「適切な支援機関との連携」、「自立支援の在り方」、「出口開拓」、「情報発信」が挙げられる。これらの課題についても2012年度事業で協議していくことが課題である。

(ii) スーパーバイズ事業において解消が期待される課題

スーパーバイザーの豊富な知見は、参加している担当者が支援を行う際に非常に参照性が高いため、個々の担当者の支援スキルの向上に資すると期待される。

また、スーパーバイズ事業により、上記運営上の課題である、「支援範囲の策定」、「支援力の向上・人材育成」、「適切な支援機関との連携」、「自立支援の在り方」、「出口開拓」、「情報発信」について、現場と外部有識者の知見を混ぜ合わせることで、効果的な対応策を考えることができると期待される。

イ 課題を克服するための今年度の目標

(i) 協議会運営全般での目標

関係機関がお互いの役割を理解し、子ども・若者に対して「支援できること」を更に共通理解できる状態を目指す。その際、調整機関のみが中心となるのではなく、参加機関同士のネットワークが相互に機能した状態になっていることが望ましい。具体的な連携の形としては、例えば、中学校を卒業し就学も就労もしていない状態、また高校等を中退し所属が無くなる状態の前段階で関係機関につなぐことができる仕組みづくりや、医療分野との更なる連携が挙げられる。

また、関係機関の子ども・若者にかかわる職員が共通の基礎知識及び組織横断的な認識を習得し、関係機関が共通意識を持って若者に関わることができるよう、支援に係るスキルを伸ばす。

(ii) スーパーバイズ事業での目標

関係機関等の担当者から構成し、協議会の目的を達成するため、各機関に寄せられた事例のうち、問題となったケースの定期的な支援状況の進行管理や情報交換等を行う。

また、各支援団体・機関が抱える問題点、課題に対して、ネットワーク外部の専門家の知見

と、地域支援の現場の経験を組み合わせることで、解決策導出の糸口を見つけることである。

さらに、今後、北九州市が自律的に解決策を検討していくために、参加者が所属を越えてネットワークを構成し、あたかも一つのチームとして機能していくための体制作りを行うことを目標として置いた。

(3) 今年度の実施内容

ア 協議会運営全般での実施内容

北九州市では地方企画委員会 1 回、実務定例会議 11 回を実施した。

| | 平成 24 年 | | | | | | | | 平成 25 年 | | |
|---------|---------|-----|-----|-----|-----|------|------|------|---------|-----|-----|
| | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 |
| 地方企画委員会 | | | | | | | | | | | |
| 実務定例会議 | | | | ○ | | | | | | | |

(i) 地方企画委員会

市の関連部局職員及び民間支援団体の代表者を集めて実施した。当モデル事業についての理解を深め、地域協議会設立に向けての方針確認を行うことを目的とし実施した。

図表 128 北九州市における地方企画委員会実施内容

| 回 | 日程 | 実施内容 | |
|---|-------|----------|--|
| 1 | 8月17日 | 議 題 | <ul style="list-style-type: none"> ・協議会参加者紹介 ・「実務者会議」実施状況報告 ・子ども・若者応援センター事業報告 |
| | | 概 要 | <ul style="list-style-type: none"> ・代表者会議参加機関に対して、2011 年度及び、2012 年度の実務者会議の実施状況、取り扱ったケースの成果等を報告した。 ・また、総合相談窓口である「子ども・若者応援センター-YELL」の活動報告を行った。 |
| | | 運営の工夫、成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・YELL 利用者の様子や参加した活動をもとに、各利用者の立ち直り、自立の状態を 10 段階で評価し、初回利用時からの成果を可視化した資料を用いて説明を行った。 |

(ii) ユースアドバイザー定例会議

実務定例会議では、月に 1 回の開催とし、総合相談窓口「子ども・若者応援センター-YELL」やその他の機関から寄せられた連携しての支援が必要なケースを検討した。また、地域資源や各機関・支援者が抱える課題について共通理解が図れるために、各機関の活動紹介や、イベント等の告知を行った。また、スーパーバイザーを招聘して複数回にわたってワークショップを行い、参加機関の相互理解や連携の可能性について協議する場を設けた。

図表 129 北九州市における実務定例会議実施内容

| 回 | 日程 | 実施内容 | |
|---|--------|----------|---|
| 1 | 5月17日 | 議 題 | <ul style="list-style-type: none"> ・ケース検討 ・参加機関紹介 ・情報共有（イベント情報等） |
| | | 概 要 | 総合相談窓口「子ども・若者応援センターYELL」から連携が必要なケースが紹介され、参加機関で協議。また、過去に検討したケースの成果が紹介された。 |
| | | 運営の工夫、成果 | ケース検討だけでなく、成果についても報告することで、連携による効果への理解を高めた。 |
| 2 | 6月21日 | 議 題 | <ul style="list-style-type: none"> ・ケース検討 ・参加機関紹介 ・情報共有（イベント情報等） |
| | | 概 要 | 総合相談窓口「子ども・若者応援センターYELL」から連携が必要なケースが紹介され、参加機関で協議。また、過去に検討したケースの成果が紹介された。 |
| 3 | 7月19日 | 議 題 | <ul style="list-style-type: none"> ・ケース検討 ・参加機関紹介 ・情報共有（イベント情報等） |
| | | 概 要 | 総合相談窓口「子ども・若者応援センターYELL」から連携が必要なケースが紹介され、参加機関で協議。また、過去に検討したケースの成果が紹介された。 |
| 4 | 8月23日 | 議 題 | <ul style="list-style-type: none"> ・ケース検討 ・参加機関に共通の問題・課題の共有 ・参加機関紹介 ・情報共有（イベント情報等） |
| | | 概 要 | <ul style="list-style-type: none"> ・総合相談窓口「子ども・若者応援センターYELL」から連携が必要なケースが紹介され、参加機関で協議。また、過去に検討したケースの成果が紹介された。 ・YELL も含めた北九州市内の支援機関にそれぞれ現在抱えている支援上の問題・課題について紹介してもらい、他の機関との連携の可能性について検討した。 |
| | | 運営の工夫、成果 | 提案されるケースが YELL によるものに偏りがちであったため、参加機関の抱える支援上の問題・課題を紹介してもらった形で、現場のケース紹介につなげ、各機関がケースを提示することに対する抵抗感を低減させた。 |
| 5 | 9月27日 | 議 題 | <ul style="list-style-type: none"> ・ケース検討 ・参加機関に共通の問題・課題の共有 ・参加機関紹介 ・情報共有（イベント情報等） |
| | | 概 要 | <ul style="list-style-type: none"> ・総合相談窓口「子ども・若者応援センターYELL」から連携が必要なケースが紹介され、参加機関で協議。また、過去に検討したケースの成果が紹介された。 ・YELL も含めた北九州市内の支援機関にそれぞれ現在抱えている支援上の問題・課題について紹介してもらい、他の機関との連携の可能性について検討した。 |
| 6 | 10月18日 | 議 題 | <ul style="list-style-type: none"> ・ケース検討 ・参加機関に共通の問題・課題の共有 |

| 回 | 日程 | 実施内容 | |
|----|--------|----------|---|
| | | | <ul style="list-style-type: none"> ・参加機関紹介 ・情報共有（イベント情報等） |
| | | 概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・総合相談窓口「子ども・若者応援センターYELL」から連携が必要なケースが紹介され、参加機関で協議。また、過去に検討したケースの成果が紹介された。 ・YELL も含めた北九州市内の支援機関にそれぞれ現在抱えている支援上の問題・課題について紹介してもらい、他の機関との連携の可能性について検討した。 |
| 7 | 11月15日 | 議題 | <ul style="list-style-type: none"> ・ケース検討 ・参加機関に共通の問題・課題の共有 ・参加機関紹介 ・情報共有（イベント情報等） |
| | | 概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・総合相談窓口「子ども・若者応援センターYELL」から連携が必要なケースが紹介され、参加機関で協議。また、過去に検討したケースの成果が紹介された。 ・YELL も含めた北九州市内の支援機関にそれぞれ現在抱えている支援上の問題・課題について紹介してもらい、他の機関との連携の可能性について検討した。 |
| 8 | 12月20日 | 議題 | <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ ・ケース検討 ・情報共有 |
| | | 概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・参加機関の役割や活動内容を理解するためのワークショップをスーパーバイザー参加のもとで実施した。参加者を各チームに分け、北九州市の支援体制の中で自組織のポジションを可視化させた。 |
| | | 運営の工夫、成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・普段の「口」の字型の机配置をやめ、5～6人ごとのチームを作ってもらい、ワールドカフェ方式で北九州市の支援機関の理解度向上のためのワークショップを行った。 ・ワークショップ実施時には、イーゼルパッド等を使い、言葉や想いを可視化することで、参加者の考えていることを他者が理解しやすい環境を用意した。 |
| 9 | 1月17日 | 議題 | <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ ・ケース検討 ・情報共有 |
| | | 概要 | <ul style="list-style-type: none"> 自立支援、出口開拓の在り方について考えるワークショップをスーパーバイザー参加のもとで実施した。自分の立場や所属機関の役割という枠組みの中で行える支援、その中では対応できないニーズについて話し合い、連携の必要性について理解を深めた。 |
| | | 運営の工夫、成果 | <ul style="list-style-type: none"> 組織の中での自分の役割や、組織の役割について考えてもらった上で、それらの制約を取り外した時にどのような支援が求められているのか、また、どのような支援が可能なのかについて検討してもらった。 |
| 10 | 2月21日 | 議題 | <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ ・ケース検討 ・情報共有 |

| 回 | 日程 | 実施内容 | |
|----|-------|----------|---|
| | | 概要 | 自分の所属する組織や、自分自身の役割について、他者に理解してもらうためにはどのような情報発信のあり方が望ましいかについて、スーパーバイザー参加のもと、ワークショップ形式で検討した。 |
| | | 運営の工夫、成果 | 参加者には架空の一枚の名刺を作成してもらった。名刺という掲載可能な情報が限定されている条件の中で伝える必要のある情報や、伝わりやすい表現方法について検討した。作成した名刺の内容はそれぞれ一人ずつ紹介してもらうことで、一体感を醸成した。 |
| 11 | 3月21日 | 議題 | ・ワークショップ・ケース検討 ・情報共有 |
| | | 概要 | 過去3回のワークショップを踏まえ、改めてケース検討を行う。 |
| | | 運営の工夫、成果 | 一連のワークショップの実施により実務定例会議の参加者間に一体感・チームワークが生まれていることが期待され、活発な議論や新しい連携の提案がなされることが期待される。 |

(iii) 参加主体

図表 130 北九州市における参加主体一覧

| | | 教育 | 福祉 | 保健・医療 | 矯正・更生保護 | 警察 | 雇用 | その他 |
|---------|----|---|--|---------------------------|---|------------------|--|--|
| 地方企画委員会 | 機関 | ・福岡県公立高等学校長協会 ・福岡県私学協会 ・北九州市教育委員会 | ・北九州市民生委員児童委員協議会 ・北九州市総務市民局安全・安心部 | ・北九州市保健福祉局 | ・北九州市子ども家庭局 ・福岡保護観察所北九州支部 ・小倉少年鑑別支所 | ・福岡県警察本部生活安全部少年課 | ・小倉公共職業安定所 ・北九州市産業経済局総務政策部雇用開発課 | ・NPO 法人STEP・北九州 |
| | 個人 | - | - | - | - | - | - | - |
| 定例会議 | 機関 | ・福岡県高等学校養護教諭研究会 ・北九州市教育委員会 | ・北九州市発達障害者支援センター ・北九州市民生委員児童委員協議会 ・北九州市総務市民局安全・安心部 | ・北九州市保健福祉局 ・精神保健福祉センター | ・北九州市子ども家庭局 ・福岡保護観察所北九州支部 ・小倉少年鑑別支所 | ・福岡県警察本部生活安全部少年課 | ・小倉公共職業安定所 ・若者ワークプラザ北九州 ・福岡県若者サポートステーション | ・NPO 法人STEP・北九州 ・子ども・若者応援センター ・青少年ボランティアステーション |
| | 個人 | - | - | - | - | - | - | - |

イ スーパーバイズ事業での実施内容

(i) スーパーバイザー

井村良英 氏

(ii) スーパーバイザー活動記録

図表 131 スーパーバイザー活動記録

| 回 | 日時 | 出席者 | 実施記録 |
|---|--------------------------|-------------|--|
| 1 | 12月20日(木) 15:00～17:00 | 実務者会議出席メンバー | <ul style="list-style-type: none"> ・自組織の支援範囲を確認する ・他機関を知り、使いこなす ・適切な連携方法を模索する |
| 2 | 1月17日(木) 15:00～17:00 | 実務者会議出席メンバー | <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援の在り方について考える ・出口開拓の考え方を身につける |
| 3 | 2月21日(木) 15:00～17:00 | 実務者会議出席メンバー | <ul style="list-style-type: none"> ・自組織の情報発信について考える |
| 4 | 3月21日(木) 15:00～17:00 | 実務者会議出席メンバー | <ul style="list-style-type: none"> ・3回のスーパーバイズ会議のまとめ |

(iii) 活動内容

図表 132 スーパーバイズに関する議題と具体的な取組内容

| 課題 | SVの具体的な取組内容 |
|---|---|
| 第1回の課題 自組織の支援範囲を確認する 他機関を知り、使いこなす 適切な連携方法を模索する | <ul style="list-style-type: none"> ・育て上げネットのワークシートを活用した北九州市の支援のカバー領域、メンバー間の意識ギャップの可視化。 ・5～6人でチームを構成し、チーム内の各メンバーが考える自組織・他組織のポジショニングを一枚の紙に転記して可視化する。 ・それぞれのチームの紙を発表し、メンバーの中でそれぞれの支援組織像を共有する。 |
| 第2回の課題 自立支援の在り方について考える 出口開拓の考え方を身につける | <ul style="list-style-type: none"> ・チームビルディングのためのワークショップ ・井村スーパーバイザーよりケース課題を提示、各参加者は専門性を持った1人の支援者として、どのように対応するかを考えてもらう。 |
| 第3回の課題 自組織の情報発信について考える | <ul style="list-style-type: none"> ・第1回、2回を踏まえた自組織の広報戦略を考えるワークショップ ・自他の組織の支援について理解した上で、自組織をどのように外部発信していくか、他の支援機関に紹介していくかについて考えてもらう。 |
| 第4回の課題 3回のスーパーバイズ会議のまとめ | <ul style="list-style-type: none"> ・過去3回の取組内容を踏まえ、支援機関・団体がどのような活動をしていくべきかについて考える。 ・北九州市子ども・若者支援地域協議会の一員としてオリジナル名刺を作成して、所属機関を越えたチームとしての一体感を醸成する。 |

(4) 今年度事業の成果

ア 協議会運営全般での成果

- (i) 関係機関がお互いの役割を理解し、子ども・若者に対して「支援できること」を更に共通理解できる状態を目指す

実務定例会議におけるケース検討、及び同会議の後半に行われたスーパーバイズ事業により、関係機関同士の理解、可能な連携の在り方についての理解が深まった。また関係機関のレベルのみならず、会議に参加している担当者間の個人レベルでの信頼関係も醸成された。

- (ii) 関係機関の子ども・若者にかかわる職員が共通の基礎知識及び組織横断的な認識を習得し、関係機関が共通意識を持って若者に関わることができるよう、支援に係るスキルを伸ばす

スーパーバイザーがケース検討に加わることにより、これまで参加機関だけで考えていた支援方法の幅が広げられることとなり、結果的に、各参加者の考え方の柔軟性の向上、支援方法のラインナップの拡充が図られた。

イ スーパーバイズ事業での成果

- (i) 自他の組織について知る

これまで自分の組織、他の組織について分っていたようで、正確には理解できていなかったことを実感することが出来た。ワークショップを実施することにより、北九州市の支援構造を協議会のみんなで知る（共有）ことが出来た。

- (ii) 自立支援、出口開拓のあり方について考える

自分の組織だけで対応することを考えるのではなく、組織を超えて（越境して）支援することを想定できるようになった。

- (iii) 情報発信、広報戦略のあり方について考える

上記（ ）（ ）を踏まえ、組織間あるいは個人間での協力関係、将来性について考えることができ、自組織の活動や情報、自分の支援内容や強みといった情報を外部発信できるようになった。

- (iv) 支援チームの立ち上げ

実務定例会議に出席している担当者の中に、若者支援という目的が共有され、お互いの信頼関係を醸成することが出来た。所属する組織は違うが、北九州市の若者支援チームとしての一体感が出来た。所属機関を越え、協議会チームとして支援が行える体制が整った。

(5) 今後の課題

ア 他機関との連携

- ・大学との連携・協働（大学間連携協働教育推進事業等）を図っていく必要がある。

イ 関係機関とのさらなる連携強化

- ・現場の担当者レベルで、支援の考え方、方向性を共有できる状態にまで連携を進めたい。

ウ 発見・誘導のための広報・プロモーションの強化

- ・本人・保護者の意識変容を促す情報発信のあり方、市民応援団等、既存の社会資源との連携、活用が必要である。

エ 中間的労働の場の創出

- ・ボランティア以上、就労未満の状態の若者に対して、就労経験を蓄積できる場を用意・提供する必要がある。